



荒れる耕作放棄地

問 「足腰の強いタフな農林水産業とは」。

答 タフ・ビジネスとは7つの目指すべき姿を示し、「足腰の強いタフな農林水産業」の方向に近づけることが実現に繋がるものと考えられる。

問 「耕作放棄地ゼロ宣言のまち」については、場所によっては費用と労力

掛けて復元しても利活用が出来ないと思うが。

答 「市内全ての農地に作物が作付けられ、耕作放棄地や作付けされていない農地がない」まちを目指す。農業委員会との連携の中で状況分析しながら、農地の有効活用に繋げていく。

問 有機栽培等の実現について、

遠野市の農業振興について



織 笠 孝 之 議員 (遠野一新会)

消費者のニーズに対応して有機栽培や特別栽培、低・減農薬での環境保全型農業が必要と考えられるが、その具体策は。

答 消費者が安心して安全な農作物を求めていることは認識している。エコファーマーもその取り組みの一つである。肥料の高騰による経営の圧迫もあることから、昨年からは市内生産グループに協力をいただき、堆肥と硫酸のみで、化学肥料に重点を置かない栽培試験を行っている。

問 指導体制取り組みは。

答 市内でも手法や品目は異なるものの、有機栽培、無農薬栽培、自然栽培等に取り組んでいる方々や、これからの取り組みとうとする方々と情報交換を行う。遠野普及サブセンター

と共に連携しながら指導体制を執っていく。

問 販路拡大は基本的にJAが一番だと思ふ。販売には市場、大手スーパー契約栽培、インターネットなど多種多様なが、行政としての専門の営業マン配置と活力あつてみんながいきいきする販路の拡大策は。

答 現在JAでも契約栽培に力を入れており、品目及び面積が着実に増加をしてきている。品質や規格などは非常に厳しいと言われるが、生協や消費者グループへの売り込みも大切である。また、直売所・市場出荷販売も期待ができる。契約内容についても情報収集すると共に、高い栽培技術を基礎として高品質をアピールしながら販路を拡大していきたい。